

第3章 調査の結果

本調査は、調査の概要（第1章）でも述べたように、青少年教育関係者が実施する事業の企画立案、運営等に資するために実施した、青少年の体験活動や意識等の実態についての全国規模調査である。

分析にあたっては、青少年の自然体験や生活体験、生活習慣等の実態について、平成24年の実態、学年間の比較、平成10年～24年の14年間または平成18年～24年の6年間の経年比較を行った。なお、平成10年～24年の14年間の経年比較については、過去の調査で分析対象としてきた、小学4年、小学6年、中学2年のデータを用い、「不明」の回答を除いたサンプルを母数としている。それに合わせ、平成10年～24年の6年間の経年比較についても、小学4年、小学6年、中学2年のデータを用いている。

また、青少年の意識等について「自己肯定感」を中心に、学年間の比較、質問項目間の関係、自然体験や生活体験との関係を分析した。

さらに、今回の調査においては、「保護者の子供との関わり（しつけ等）」に注目し、子供の自然体験・生活体験、自己肯定感との関係について詳しく分析を行った。

以下は、その結果である。なお、グラフの比率については、小数点第1位、または小数点第2位を四捨五入した数値を用いていることから、各項目における比率の合計が100%、または100.0%にならない場合がある。

3.1 青少年の体験について

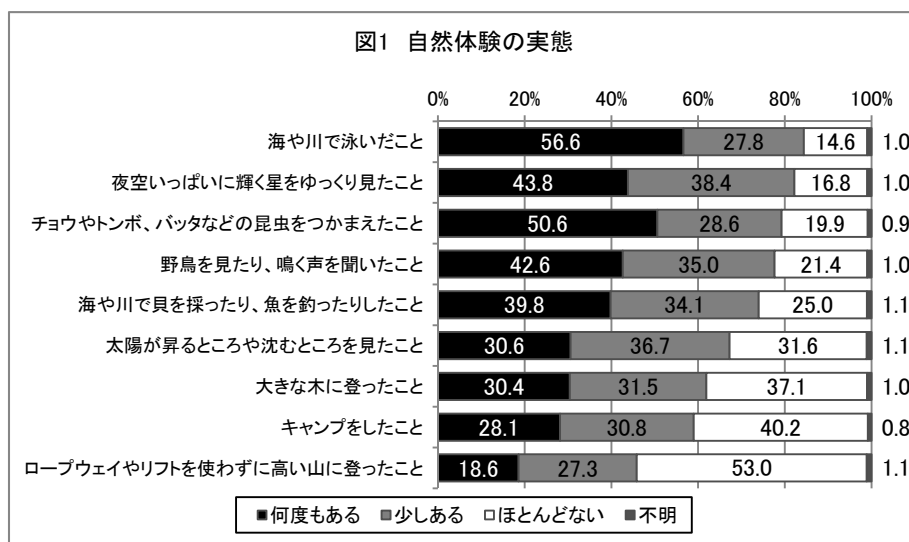
青少年の自然体験、生活体験、お手伝い、学校の授業や行事以外の自然体験活動について、「平成24年度の実態」、「学年間の比較」、「これまでの調査結果を踏まえた経年比較」の3つの観点から分析を行った。また、自然体験、生活体験、お手伝いのそれぞれの関係についても分析を行った。

3.1.1 自然体験

ア. 平成24年の実態

今の青少年（小学生（以下、小学生は小学4年、小学5年、小学6年を示す）、中学2年（以下、中2）、高校2年（以下、高2））の自然体験（9項目）について、これまでにどれくらいしたことがあるのかを各項目について「何度もある」、「少しある」、「ほとんどない」の3段階で捉え、「何度もある」、「少しある」と答えた割合の多い順に並べた。

「何度もある」、「少しある」と答えた割合は、「海や川で泳いだこと」、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」が、8割以上である。一方、「キャンプをしたこと」は、6割以下であり、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」は、5割以下である。



イ. 学年間の比較

行っている割合の高い「海や川で泳いだこと」、「チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと」、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」は、学年別に見ても約8割が「何度もある」、「少しある」と答えている。これらの体験は、ほとんど学年間に差が見られないため、幼少期から行っていると考えられる。

行っている割合の低い「大きな木に登ったこと」、「キャンプをしたこと」、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ること」は、学年が上がるにつれて「何度もある」、「少しある」と答えた割合が増加しているため、高学年から行われていることが多いと考えられる。

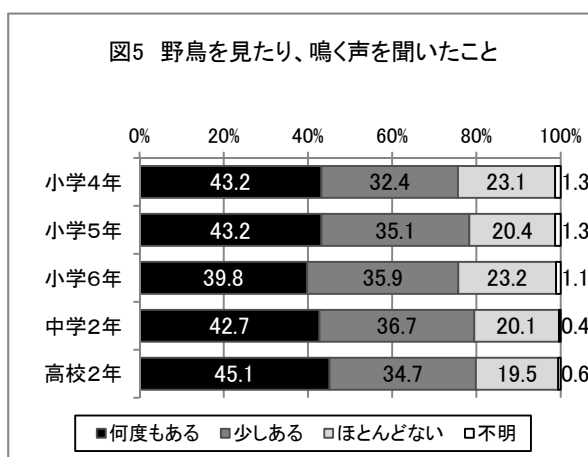
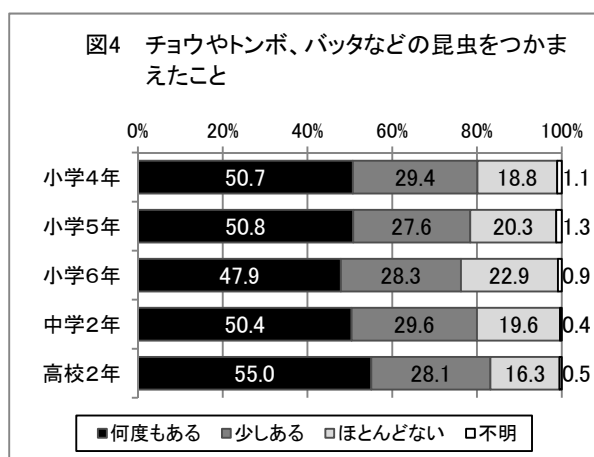
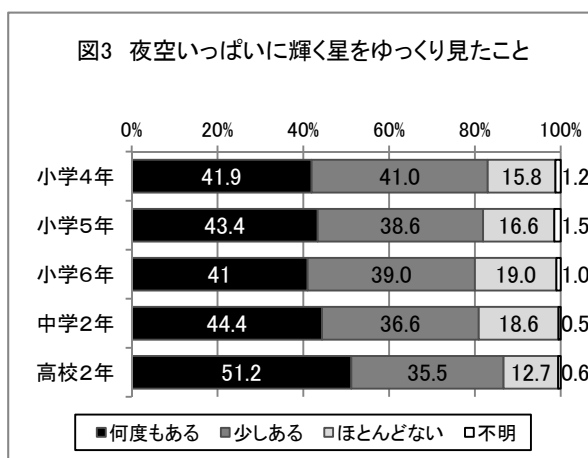
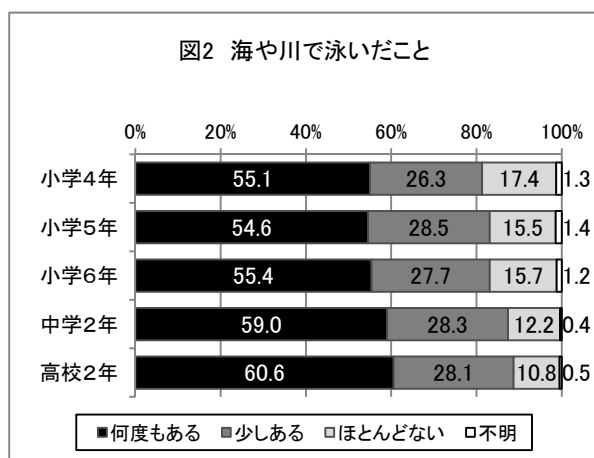


図6 海や川で貝を採ったり、魚を釣ったりしたこと

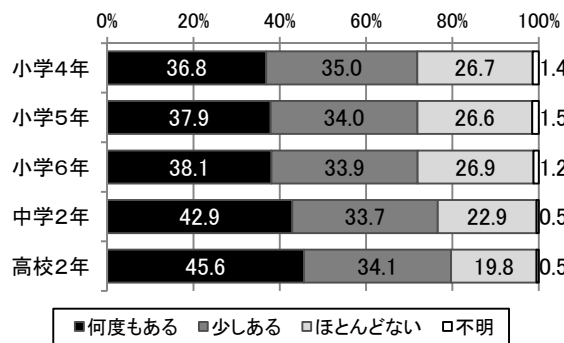


図7 太陽が昇るところや沈むところを見たこと

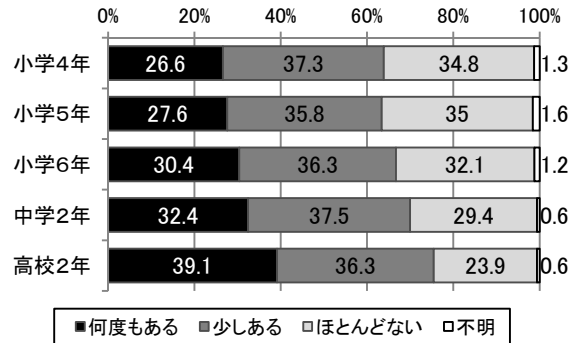


図9 キャンプをしたこと

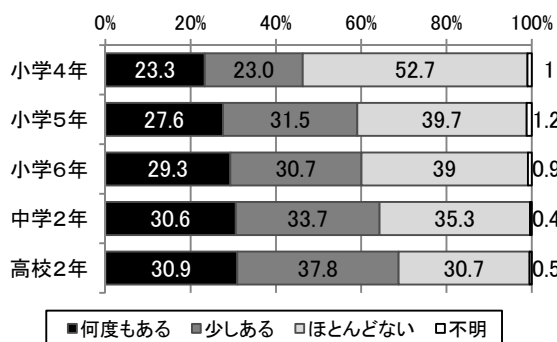


図8 大きな木に登ったこと

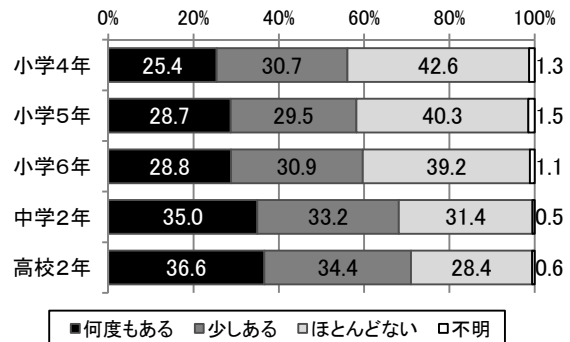
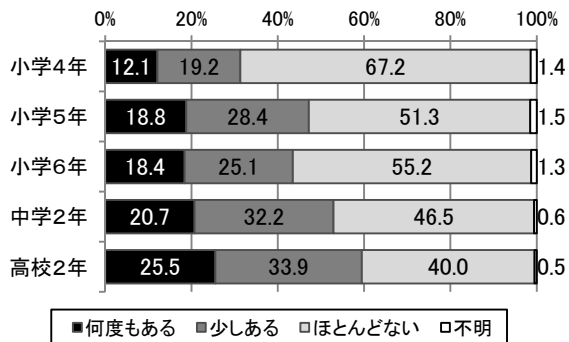


図10 ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと



ウ. 自然体験の平成10年から平成24年の14年間の経年比較

平成10年から平成24年の14年間の小中学生（小4、小6、中2）の自然体験を見ると、これまでになどにどれくらいしたことがありますかという問いに、「何度もある」、「少しある」と答えた割合は、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」、「野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと」、「太陽が昇るところや沈むところを見たこと」、「大きな木に登ったこと」、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」は、平成10年から平成17年にかけて減少し、平成21年、平成24年と増加傾向にあるが、それ以外は、平成10年から平成21年にかけて減少し、平成21年から平成24年にかけて増加しており、平成10年と同程度の割合まで回復している。

また、質問項目間で比べてみると、平成24年と同様に、「海や川で泳いだこと」、「夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと」などの体験に比べ、「キャンプをしたこと」、「ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと」などの体験は、「何度もある」、「少しある」と答えた割合は低く、その傾向は平成10年から変わっていない。

図11 海や川で泳いだこと

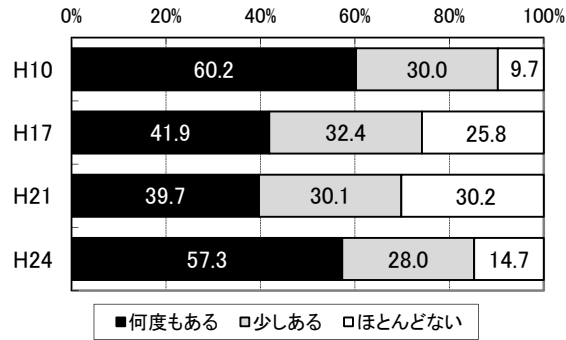


図12 夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと

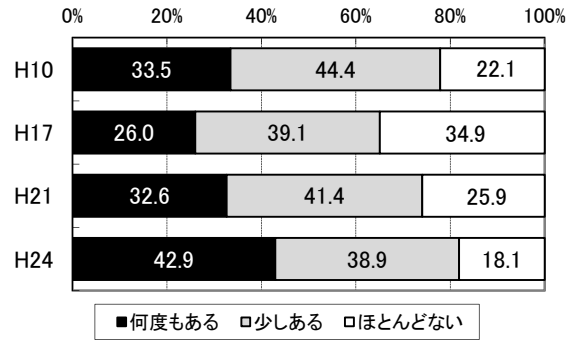


図13 チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと

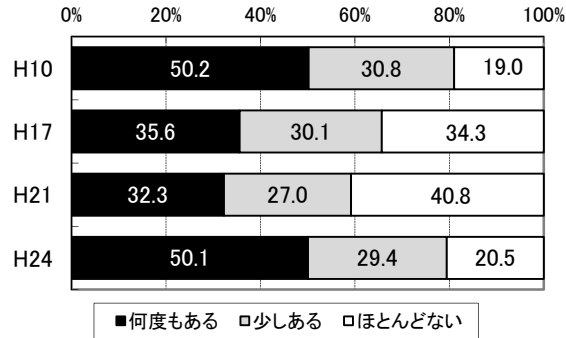


図14 野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと

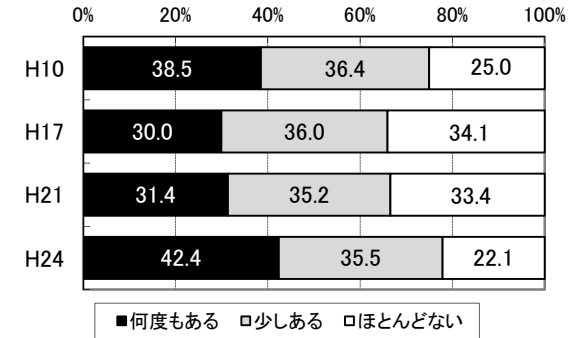


図15 海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと

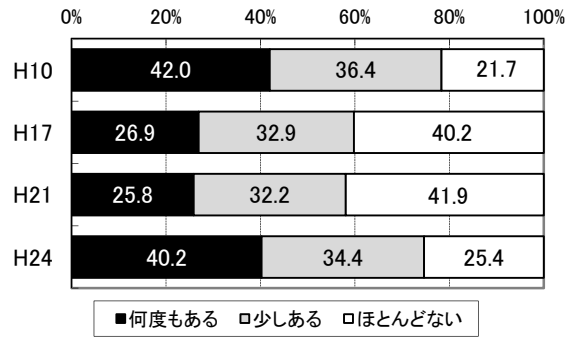
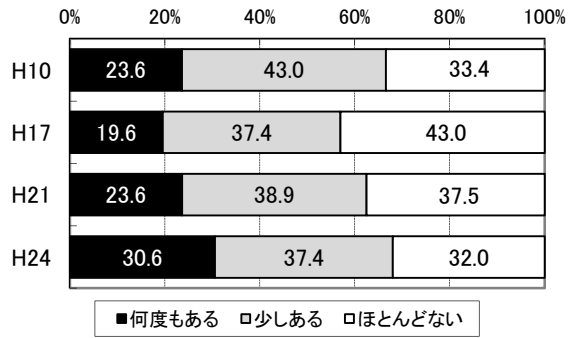
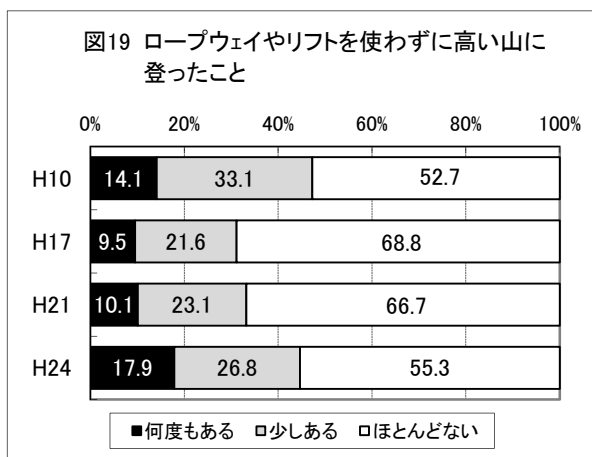
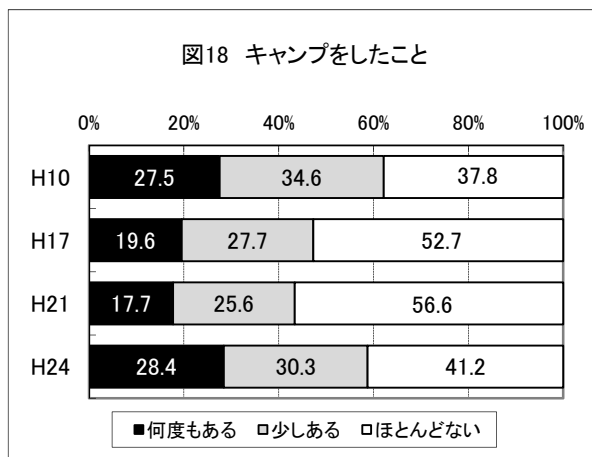
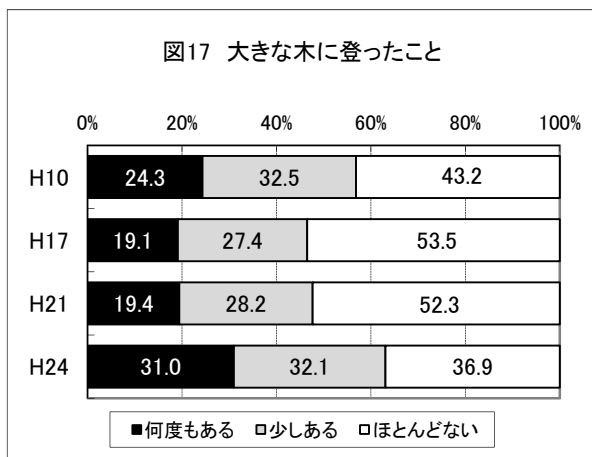


図16 太陽が昇るところや沈むところを見たこと



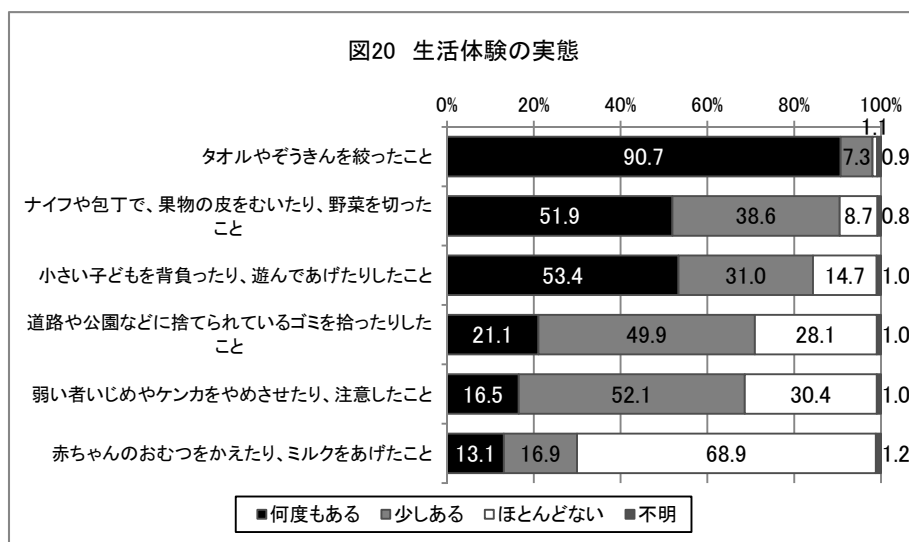


3. 1. 2 生活体験

ア. 平成24年の実態

今の青少年（小学生、中2、高2）の生活体験（6項目）について、これまでにどれくらいしたことがあるのかを各項目について「何度もある」、「少しある」、「ほとんどない」の3段階で捉え、「何度もある」、「少しある」と答えた割合の多い順に並べた。

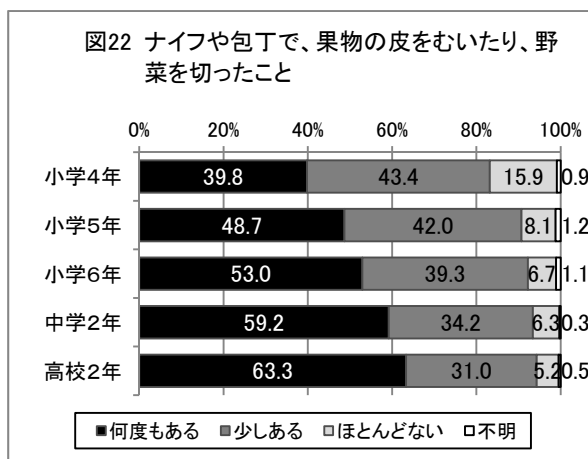
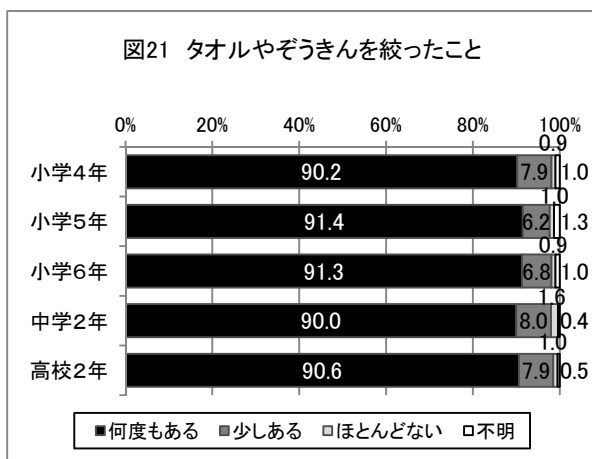
「何度もある」、「少しある」と答えた割合は、「タオルやぞうきんを絞ったこと」が、ほとんど全てであり、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」が、9割以上である。一方、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」は、3割程度である。

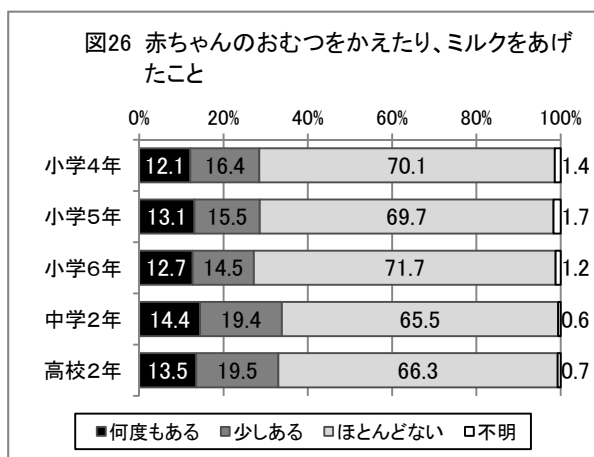
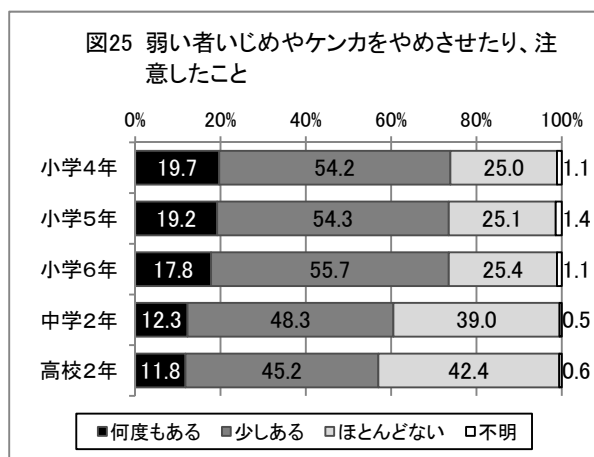
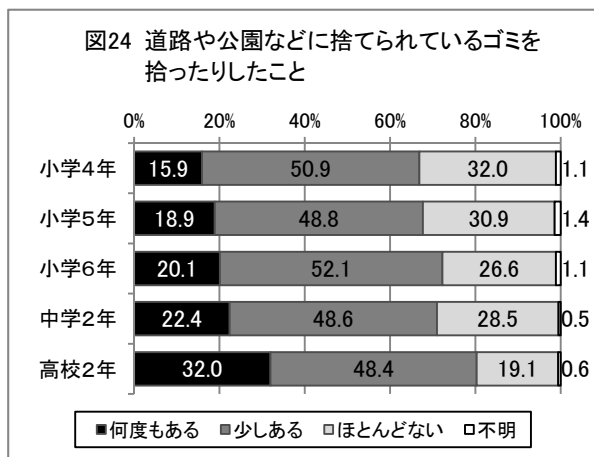
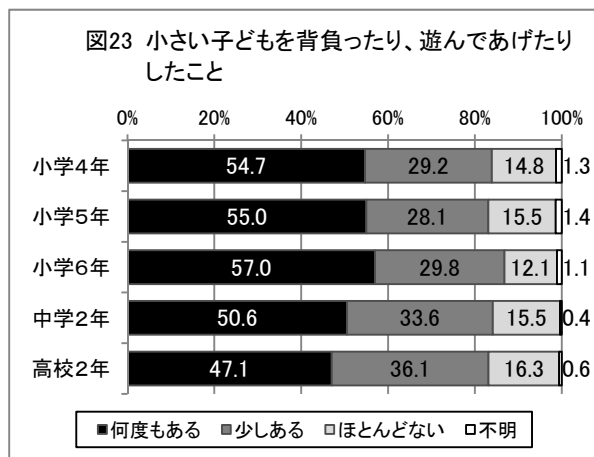


イ. 学年間の比較

「タオルやぞうきんを絞ったこと」は行っている割合が非常に高く、ほとんど全員が「何度もある」、「少しある」と答えており、学年の差は見られないため、幼少期から多く行っていると考えられる。「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」は、どの学年でも8割以上が「何どもある」、「少しある」と答えており、「何どもある」と答えた割合が、学年が上がるにつれて増加しているため、高学年から多く行われていると考えられる。

行っている割合の低い「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」については、学年が上がるにつれて減少している。また、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」は、学年による差は見られない。



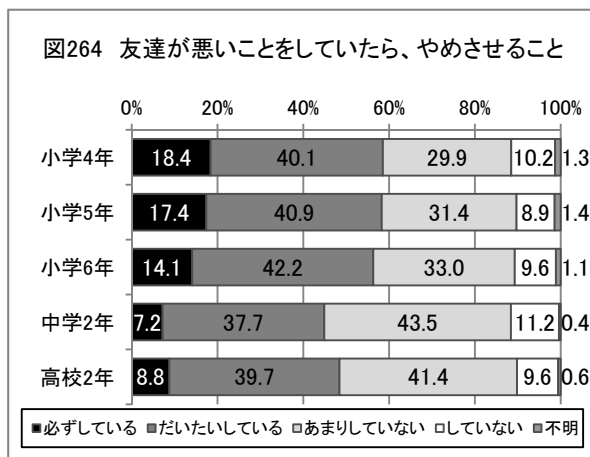
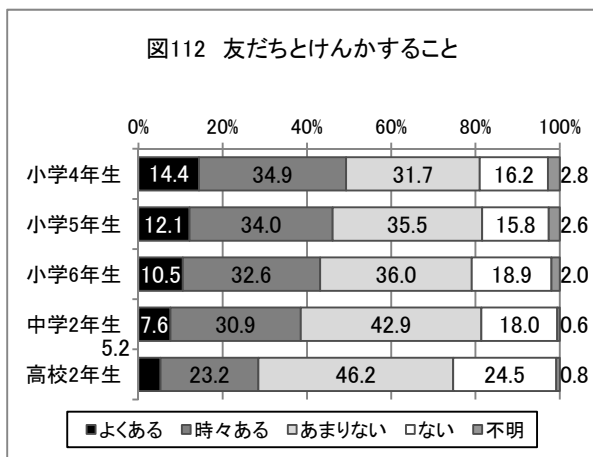


(参考)

「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」については、学年が上がるにつれて、減少する傾向が見られる。これまでにしたことがあるかないかを答えているため、本来であれば、学年が上がるにつれて「何度もある」、「少しある」と答えた割合が増加するか、もしくは、変わらない傾向にあるはずである。

別の調査項目である「友だちとけんかをする事」について見ると、ふだんの生活の中で、どのくらいありますかという問いに、「よくある」、「時々ある」と答えた割合は、学年が上がるにつれて減少している。また、「友達が悪いことをしていたら、やめさせること」について見ると、どれくらいしていますかという問いに、「必ずしている」、「だいたいしている」と答えた割合も、中高生になると減少している。

「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」については、学年が上がるにつれて友だちとのけんかの回数が減ったり、友だちが悪いことをしていたらやめさせることが少なかったりする青少年の現在の生活や意識に影響されたと推測される。



ウ. 平成10年から平成24年の14年間の比較

平成10年から平成24年の14年間の小中学生（小4、小6、中2）の生活体験を見ると、これまでになどくらいしたことがありますかという問いに、「何度もある」、「少しある」と答えた割合は、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」は、平成10年からゆるやかな増加傾向にある。「タオルやぞうきんを絞ったこと」、「小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと」、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」は、平成10年から平成17年にかけて若干減少し、平成17年から平成24年にかけてゆるやかに増加している。「道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと」は、平成10年から平成21年にかけてゆるやかに減少し、平成21年から平成24年にかけて増加している。

また、質問項目間で比べてみると、平成24年と同様に、「タオルやぞうきんを絞ったこと」、「ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと」などの体験に比べ、「弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと」、「赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと」などの体験は、「何度もある」、「少しある」と答えた割合が低く、その傾向は平成10年から変わっていない。

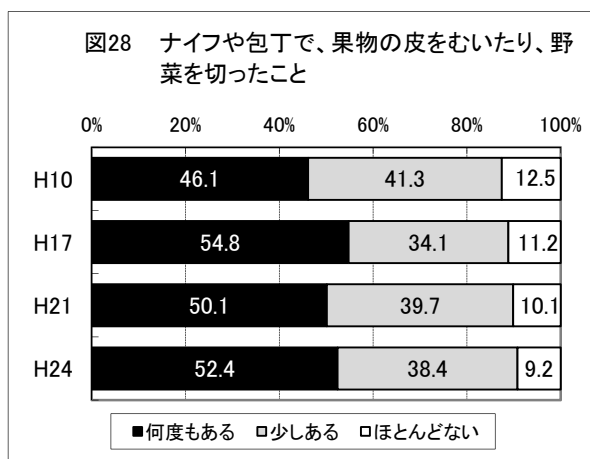
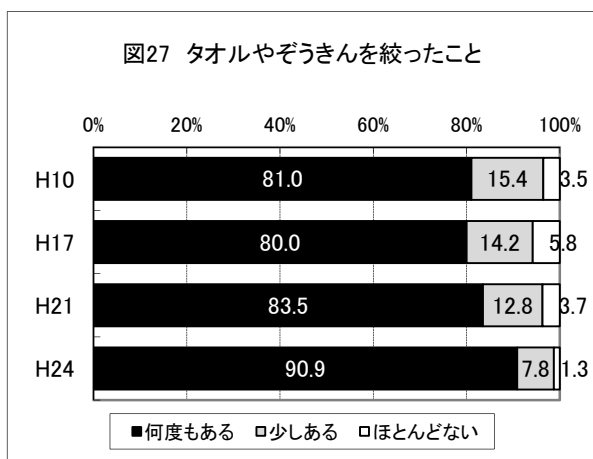


図29 小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと

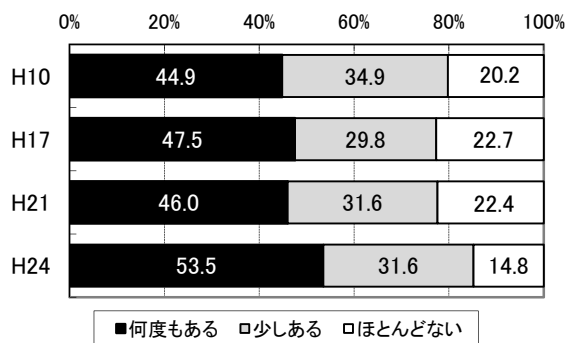


図30 道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと

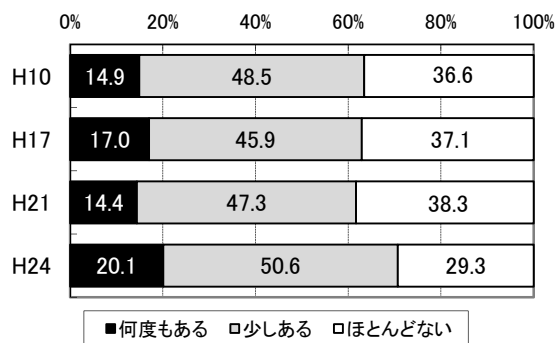


図31 弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと

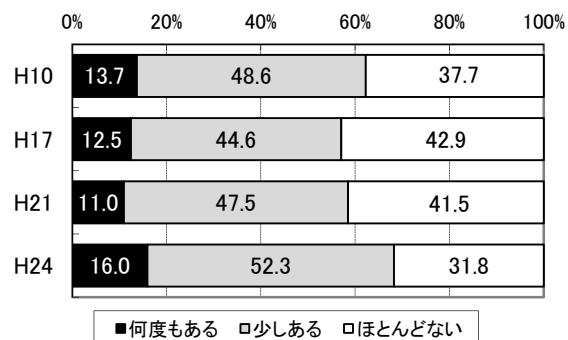
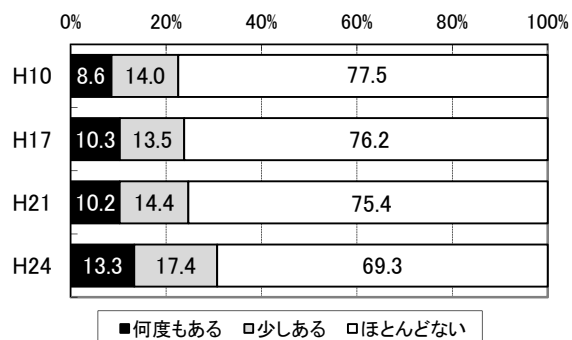


図32 赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと

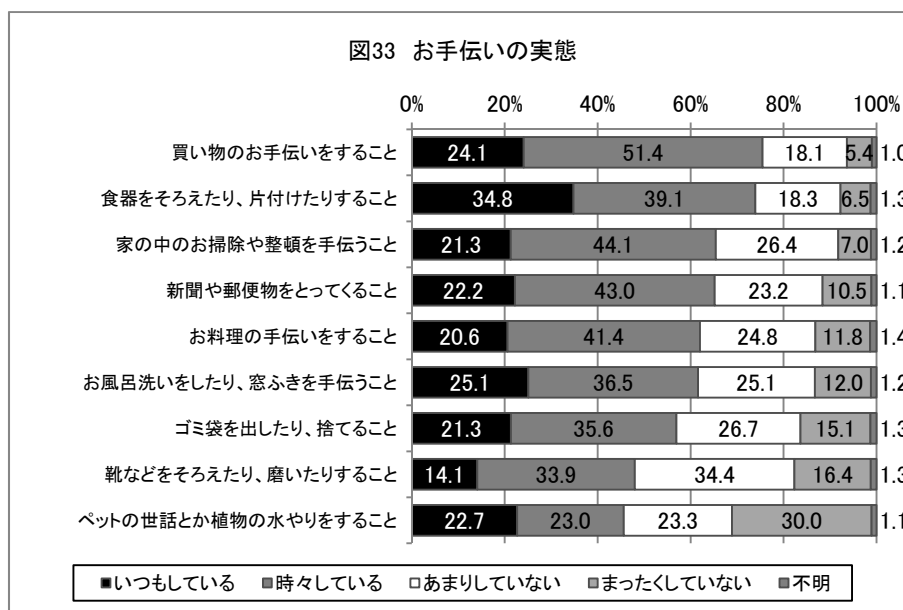


3. 1. 3 お手伝い

ア. 平成 24 年の実態

今の青少年（小学生、中2、高2）のお手伝い（9項目）について、普段どれくらいしているのかを各項目について「いつもしている」、「時々している」、「あまりしていない」、「まったくしていない」の4段階で捉え、「いつもしている」、「時々している」と答えた割合の多い順に並べた。

「いつもしている」、「時々している」と答えた割合は、「買い物のお手伝いをすること」、「食器をそろえたり、片付けたりすること」は、7割以上である。一方、「靴などをそろえたり、磨いたりすること」、「ペットの世話とか植物の水やりをすること」は、半数以下である。



イ. 学年間の比較

「いつもしている」、「時々している」と答えた割合は、「食器をそろえたり、片付けたりすること」、「家の中のお掃除や整頓を手伝うこと」については、6割～7割であり、学年に関わらず、ほぼ同じ割合である。それ以外の項目については、学年が上がるにつれて、ゆるやかに減少する傾向にある。

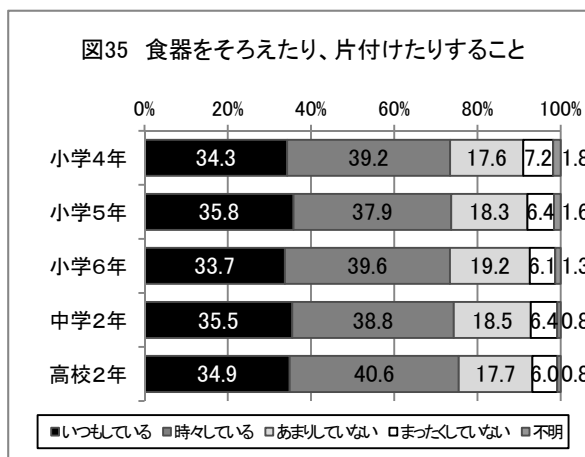
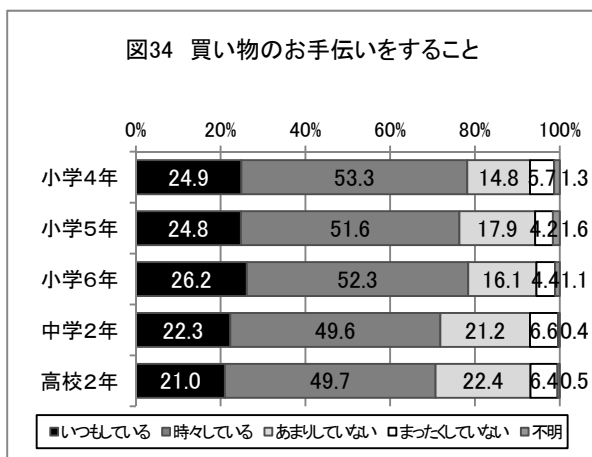


図36 家の中のお掃除や整頓を手伝うこと

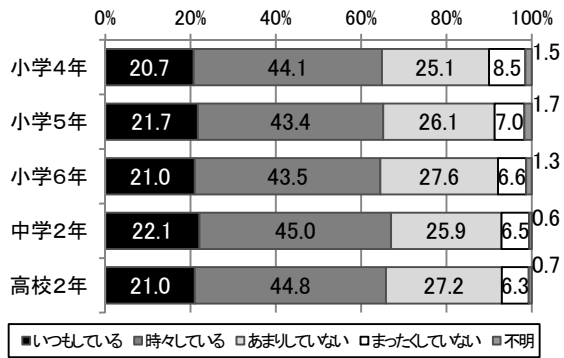


図37 新聞や郵便をとってくること

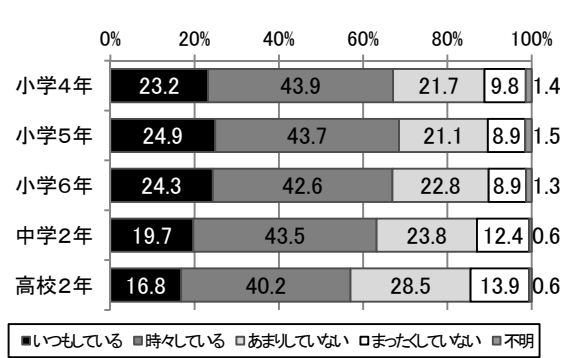


図38 お料理の手伝いをすること

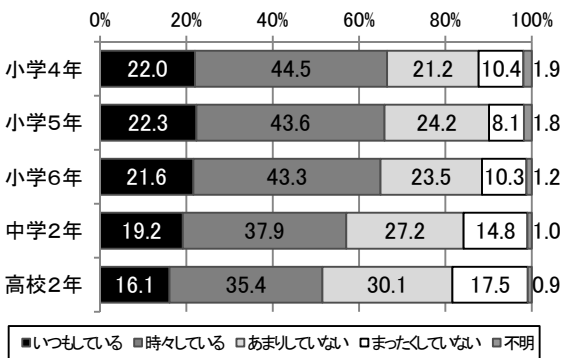


図39 お風呂洗いをしたり、窓ふきを手伝うこと

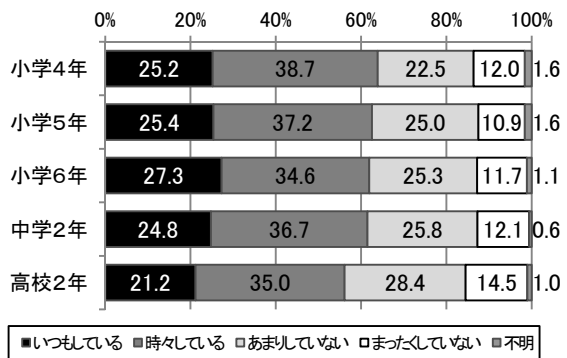


図40 ゴミ袋を出したり、捨てること

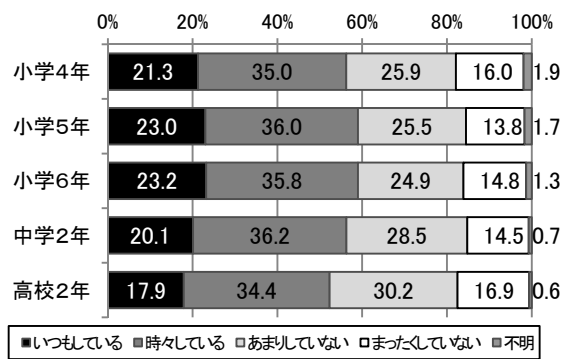


図41 靴などをそろえたり、磨いたりすること

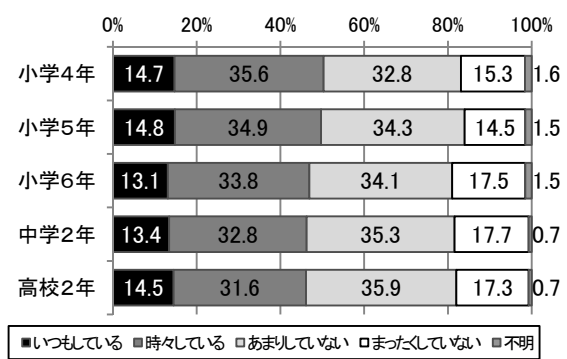
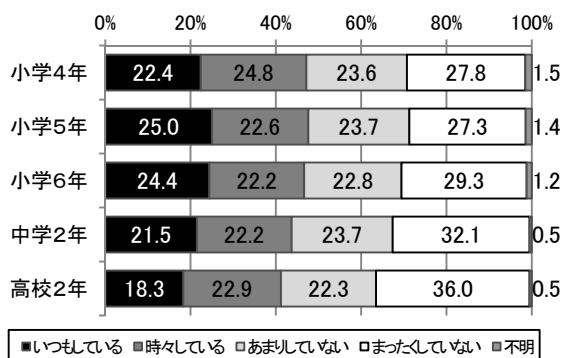
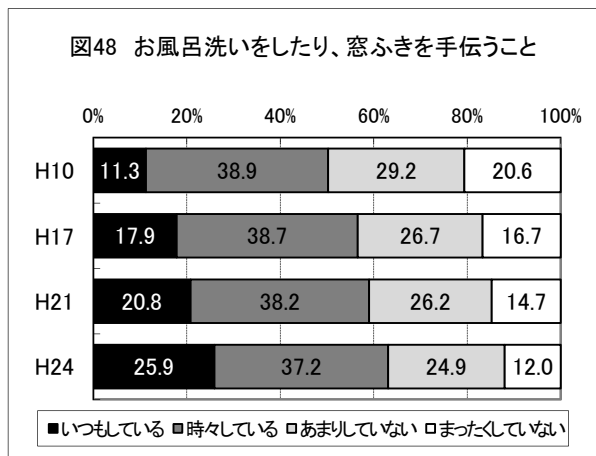
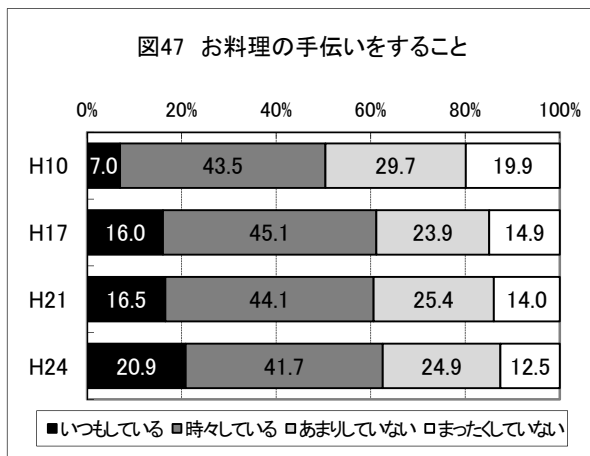
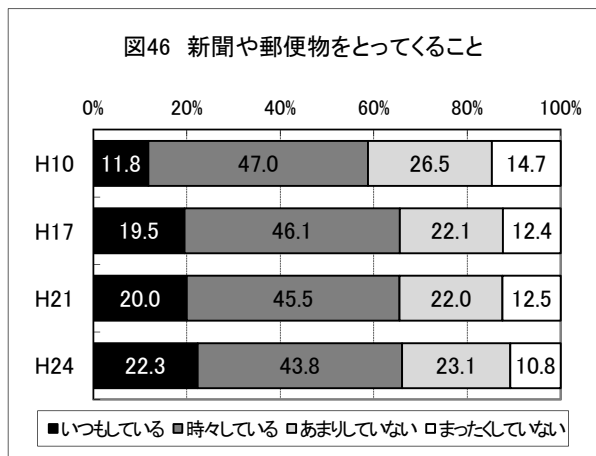
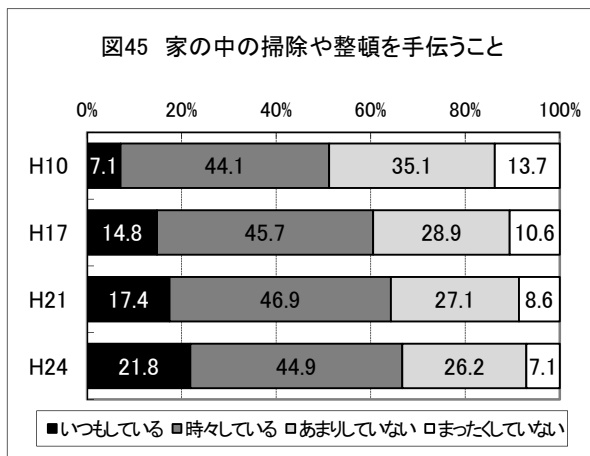
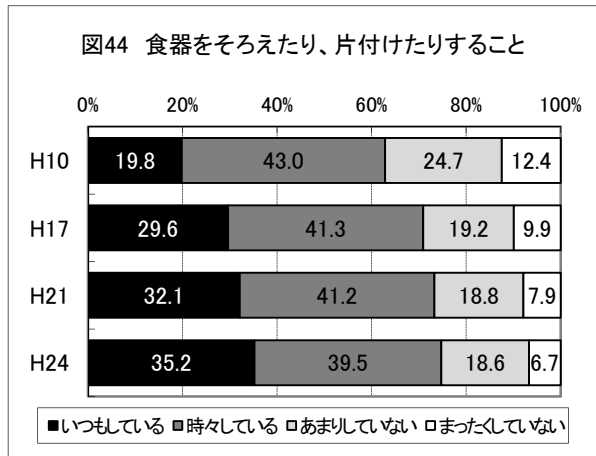
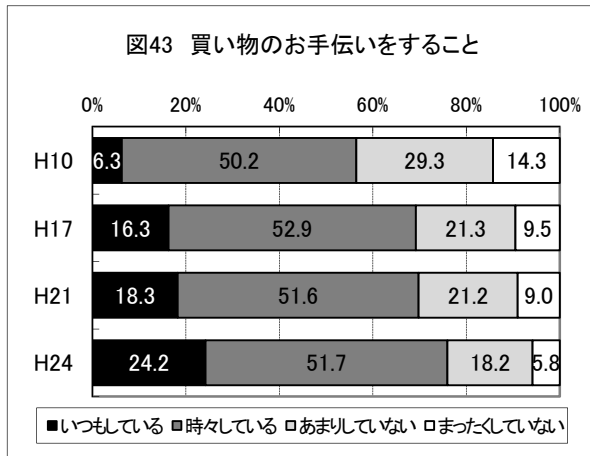


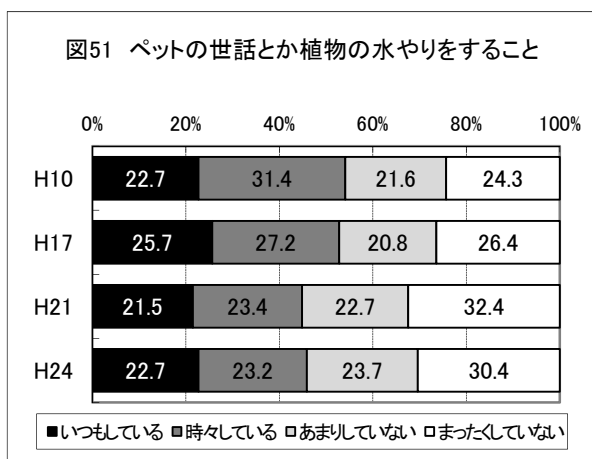
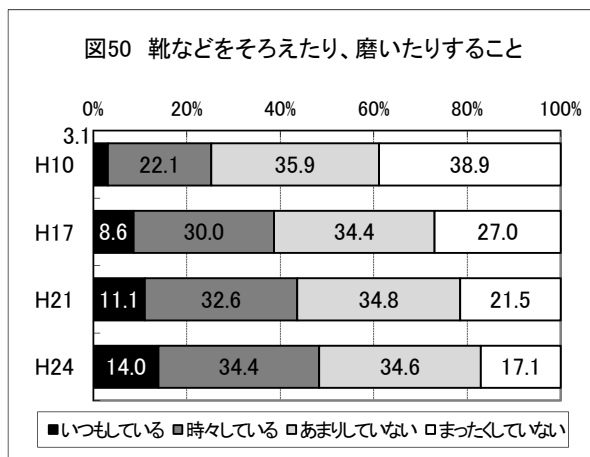
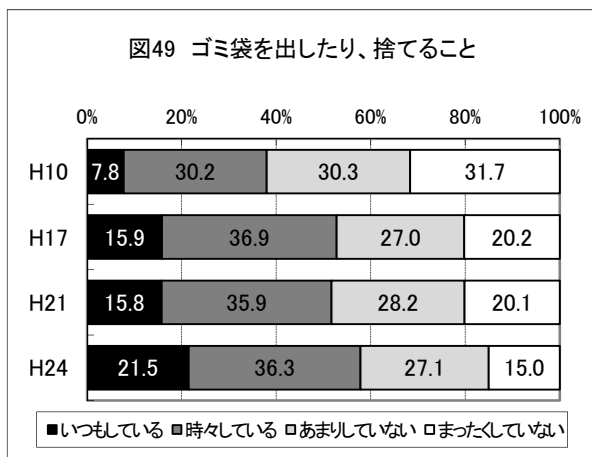
図42 ペットの世話とか植物の水やりをすること



ウ. 平成 10 年から平成 24 年の 14 年間の比較

平成 10 年から平成 24 年の 14 年間の小中学生（小 4、小 6、中 2）のお手伝いを見ると、普段どれくらいしていますかという問いに、「いつもしている」、「時々している」と答えた割合は、「ペットの世話とか植物の水やりをすること」以外は、平成 10 年から増加傾向にある。

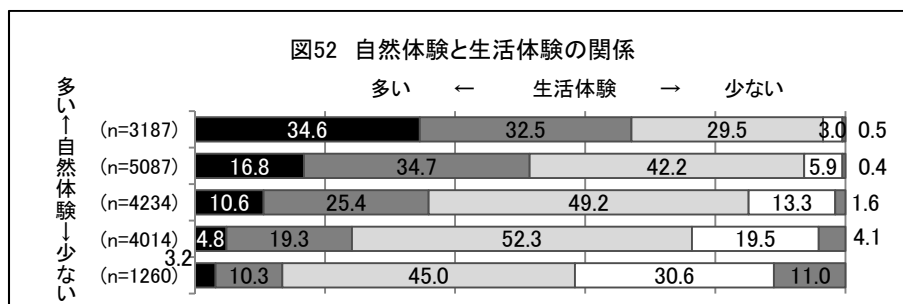


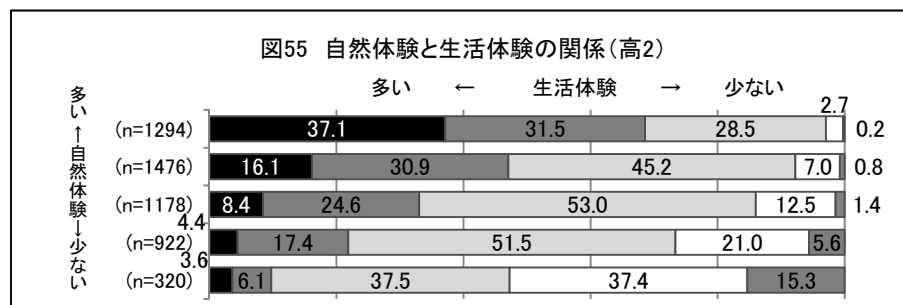
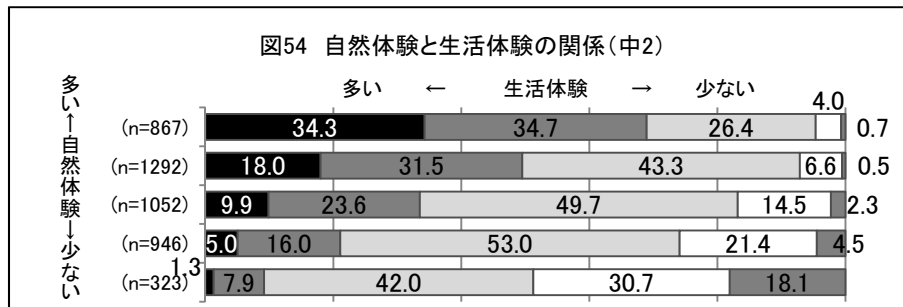
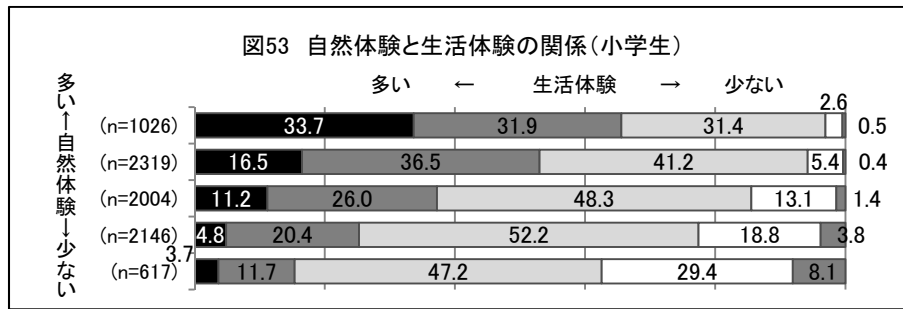


3. 1. 4 体験同士の関係について

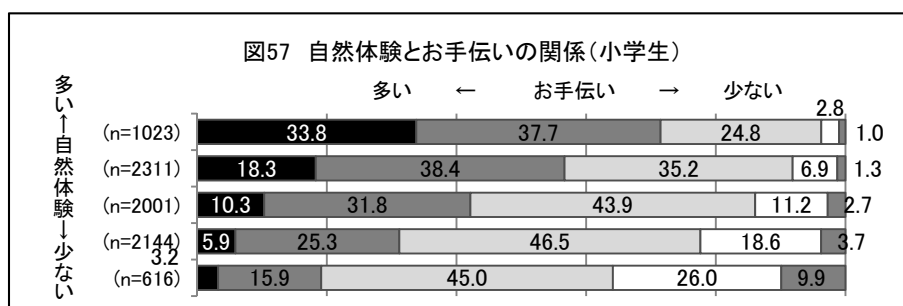
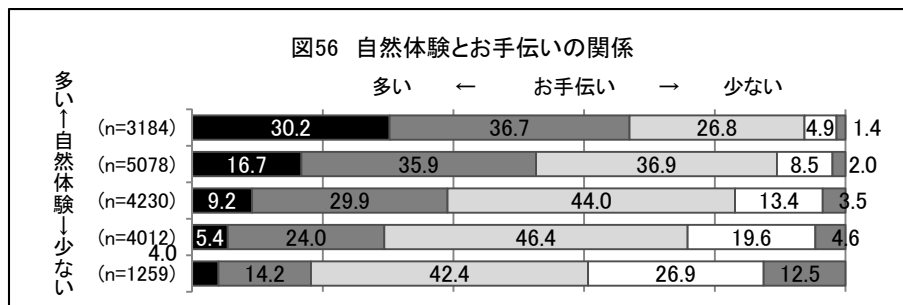
体験同士の関係を見ると、自然体験を行っている割合が高いほど、生活体験を行っている割合も高い傾向にある。この傾向は、どの学年（小学生、中2、高2）においても見られる。また、自然体験とお手伝い、お手伝いと生活体験においても、同様の傾向が見られる。様々な体験を行っている子供と行っていない子供の差が大きくなっていると考えられる。

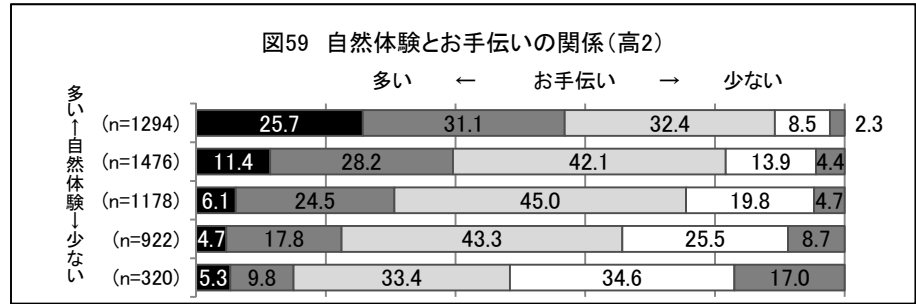
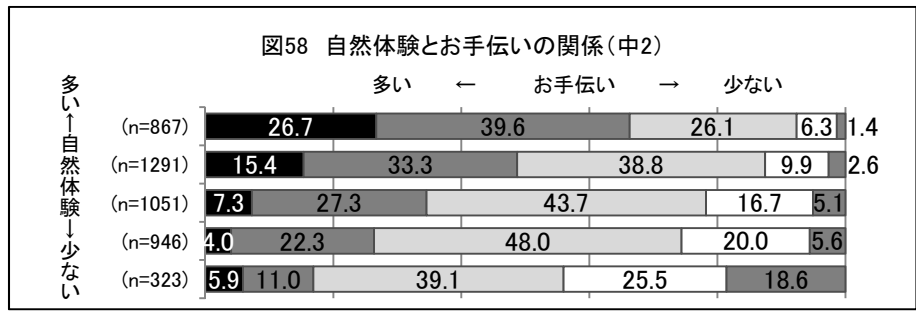
ア. 自然体験と生活体験の関係



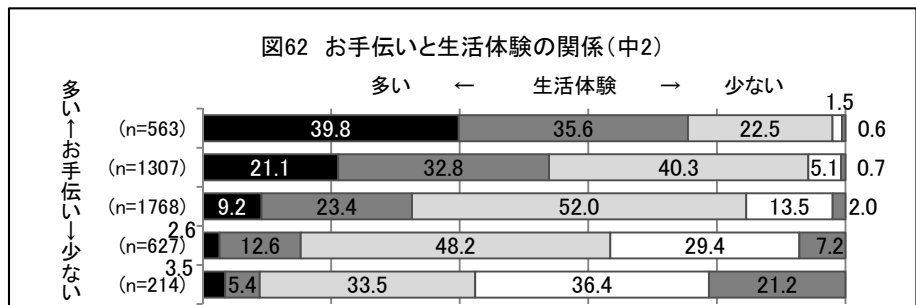
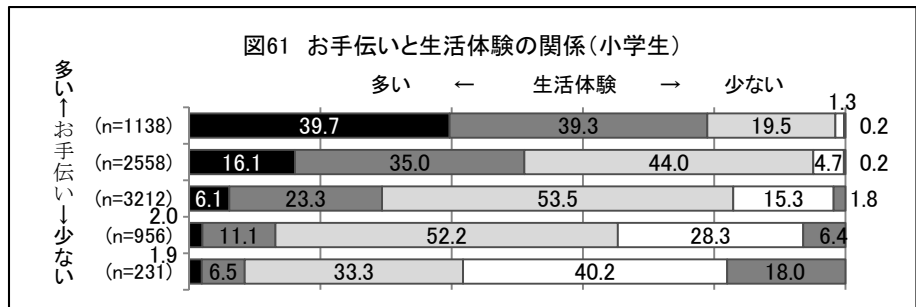
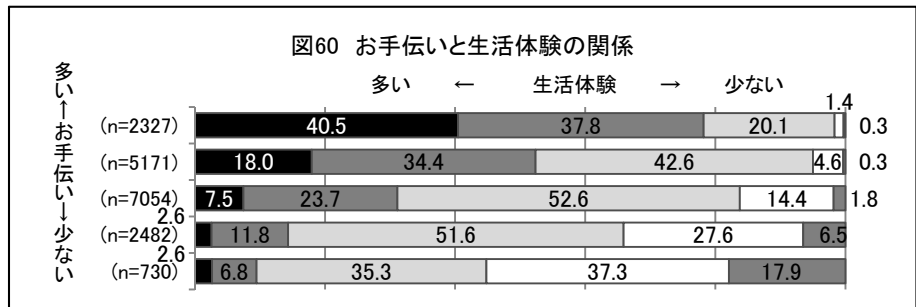


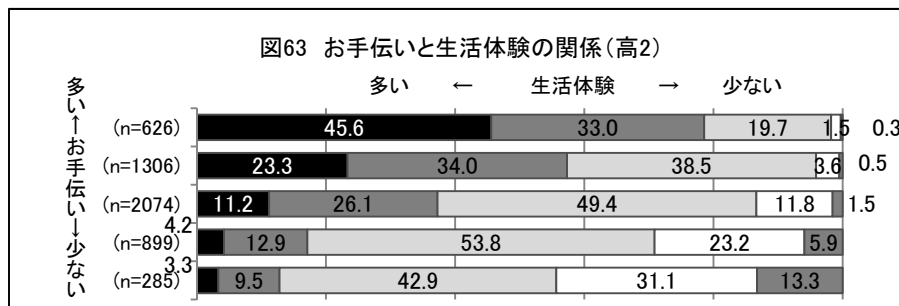
イ. 自然体験とお手伝いの関係





ウ. お手伝いと生活体験の関係





(注)

各グラフの縦軸および横軸では、「←○○○→」という矢印で5つの群に分けているが、それについては、被調査者の回答を得点化し、5段階に分類したものである。得点化及び分類の手順は、次の通りである。

「自然体験」、「生活体験」のそれぞれの指標は、自然体験は9項目、生活体験は6項目を得点化したもの。これらの項目は、「何度もある」、「少しある」、「ほとんどない」の3段階で捉えており、「何度もある」を1点、「少しある」を2点、「ほとんどない」を3点として、指標毎にそれぞれの平均点を算出した（無回答の項目がある場合は、回答が得られた項目で平均点を算出し、すべての項目が無回答の場合は、母数から除外）。算出された平均点に従って、「1点以上1.4点未満」、「1.4点以上1.8点未満」、「1.8点以上2.2点未満」、「2.2点以上2.6点未満」、「2.6点以上3点以下」の5段階に分類した。

「お手伝い」の指標は、9項目を得点化したもの。この項目は、「いつもしている」、「時々している」、「あまりしていない」、「まったくしていない」の4段階で捉えており、「いつもしている」を1点、「時々している」を2点、「あまりしていない」を3点、「まったくしていない」を4点として、9項目の平均点を算出した（無回答の項目がある場合は、母数から除外）。算出された平均点に従って、「1点以上1.6点未満」、「1.6点以上2.2点未満」、「2.2点以上2.8点未満」、「2.8点以上3.4点未満」、「3.4点以上4点以下」の5段階に分類した。

- 【参考】自然体験に関する質問項目**
- ・チョウやトンボ、バッタなどの昆虫をつかまえたこと
 - ・海や川で貝を探ったり、魚を釣ったりしたこと
 - ・大きな木に登ったこと
 - ・ロープウェイやリフトを使わずに高い山に登ったこと
 - ・太陽が昇るところや沈むところを見たこと
 - ・夜空いっぱいに輝く星をゆっくり見たこと
 - ・野鳥を見たり、鳴く声を聞いたこと
 - ・海や川で泳いだこと
 - ・キャンプをしたこと

- 【参考】生活体験に関する質問項目**
- ・ナイフや包丁で、果物の皮をむいたり、野菜を切ったこと
 - ・タオルやぞうきんなどを絞ったこと
 - ・道路や公園などに捨てられているゴミを拾ったりしたこと
 - ・弱い者いじめやケンカをやめさせたり、注意したこと
 - ・赤ちゃんのおむつをかえたり、ミルクをあげたこと
 - ・小さい子どもを背負ったり、遊んであげたりしたこと

- 【参考】お手伝いに関する質問項目**
- ・買い物のお手伝いをする
 - ・新聞や郵便物をとってくる
 - ・靴などをそろえたり、磨いたり
 - ・食器をそろえたり、片付けたり
 - ・家の中のお掃除や整頓を手伝う
 - ・ゴミ袋を出したり、捨てる
 - ・お風呂洗いをしたり、窓ふきを手伝う
 - ・お料理の手伝いをする
 - ・ペットの世話とか植物の水やりをする

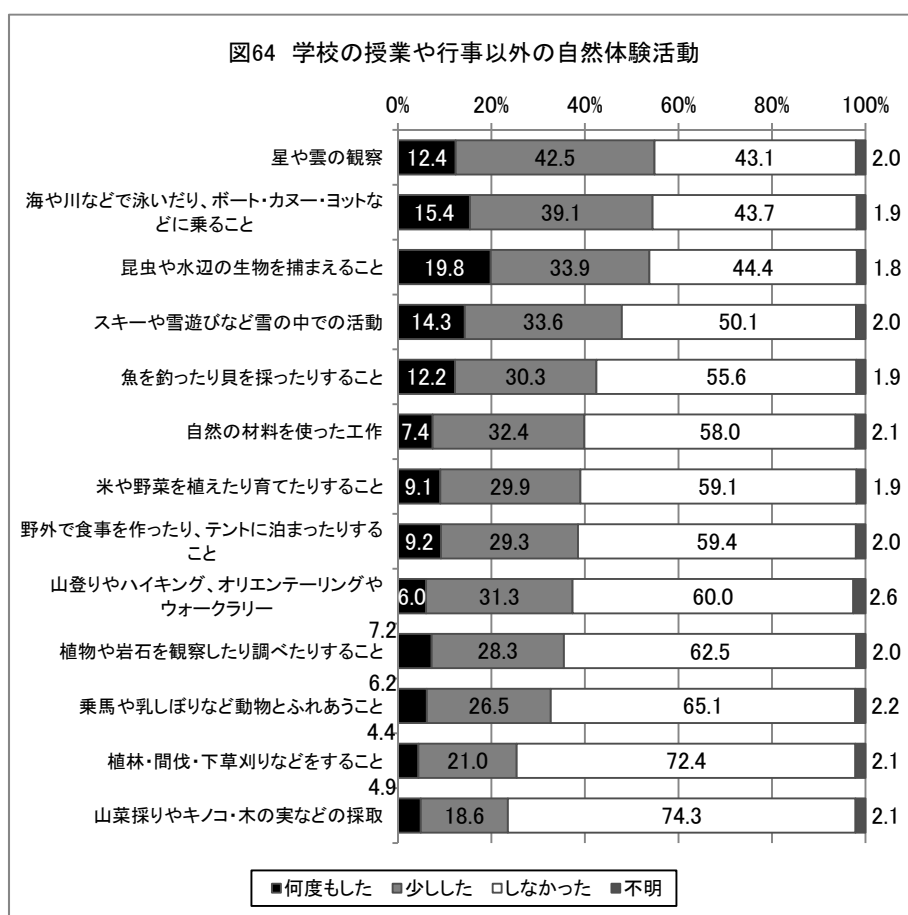
3. 1. 5 学校の授業や行事以外の自然体験活動

ア. 平成 24 年の実態

今の青少年（小学生、中 2、高 2）の自然体験活動（13 項目）について、4 月からこれまで（該当年度の 4 月から調査時期（2 月）まで）について、学校の授業や行事以外でどれくらいしたことがあるのかを各項目について、「何度もした」、「少しした」、「しなかった」の 3 段階で捉え、「何度もした」、「少しした」と答えた割合の多い順に並べた。

なお、小学生（小学 1 年～小学 6 年）のデータに関しては、保護者調査において、保護者が自分の子供の実施状況について回答した結果を用いている。

「何度もした」、「少しした」と答えた割合は、「星や雲の観察」、「海や川などで泳いだり、ボート・カヌー・ヨットなどに乗ること」、「昆虫や水辺の生物を捕まえること」については、5 割以上である一方、「植林・間伐・下草刈りなどをすること」、「山菜採りやキノコ・木の実などの採取」については、3 割以下である。



イ. 学年間の比較

ほとんどの項目で、学年が上がるにつれて、「何度もした」、「少しした」と答えた割合が減少する傾向にある。

「星や雲の観察」については、「何度もした」、「少しした」と答えた割合が、小学 4 年で急に増えている。小学 4 年の理科で「天気の様子」や「月と星」について学習するために、学校の授業や行事以外でも、星や雲を眺める機会が増えたのではないかと考えられる。

図65 星や雲の観察

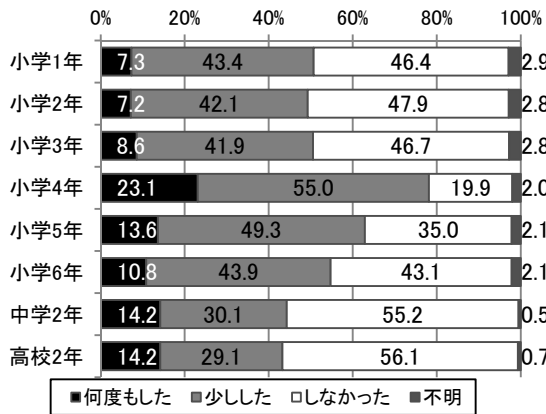


図66 海や川などで泳いだり、ボート・カヌー・ヨットに乗ること

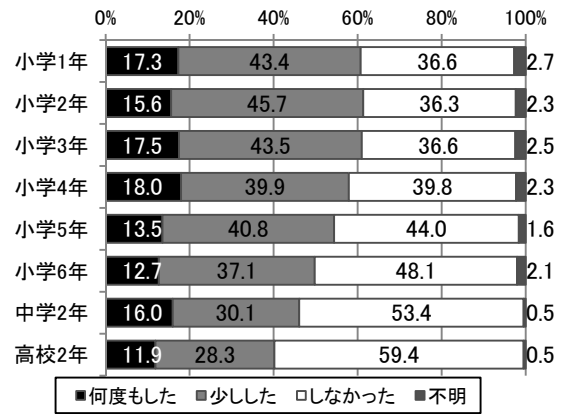


図67 昆虫や水辺の生物を捕まえること

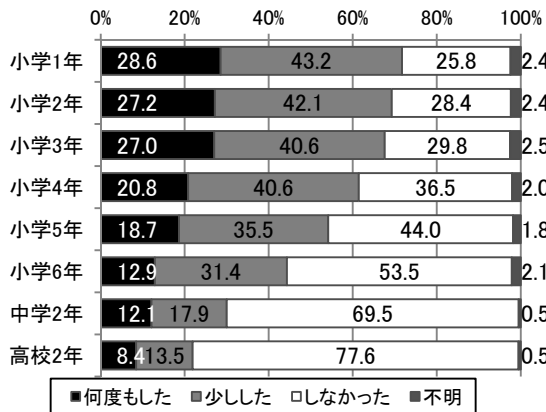


図68 スキーや雪遊びなど雪の中での活動

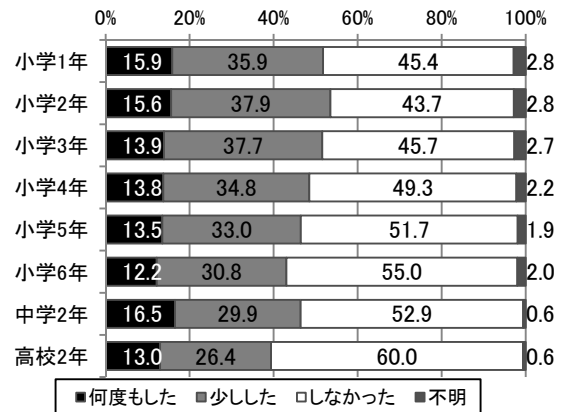


図69 魚を釣ったり貝を採ったりすること

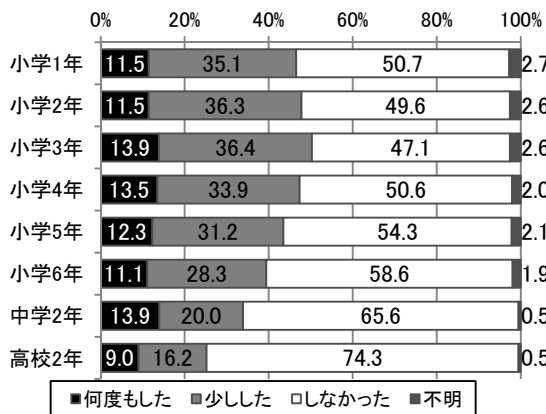


図70 自然の材料を使った工作

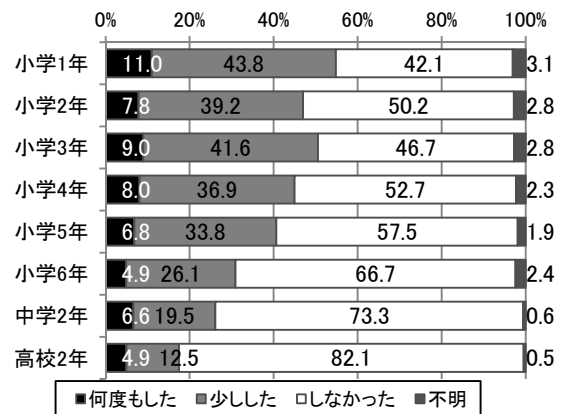


図71 米や野菜を植えたり育てたりすること

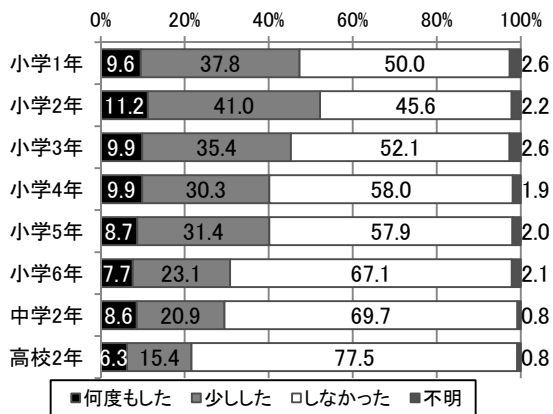


図72 野外で食事を作ったり、テントに泊まったりすること

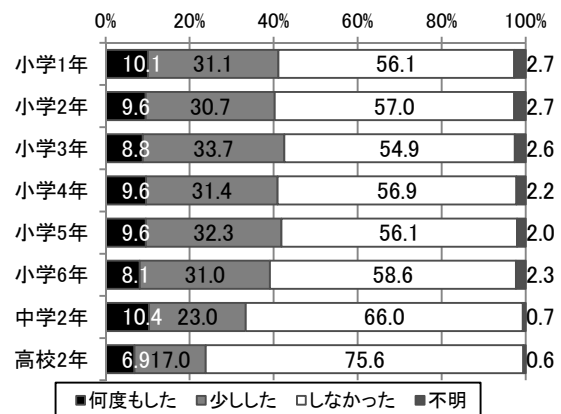


図73 山登りやハイキング、オリエンテーリングやウォークラリー

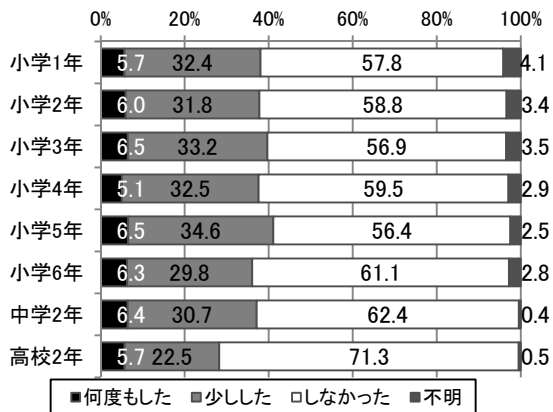


図74 植物や岩石を観察したり調べたりすること

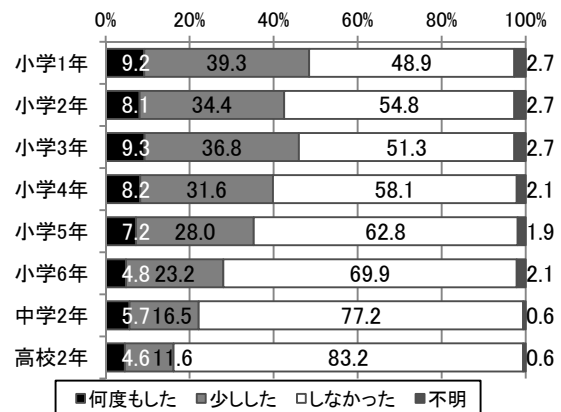


図75 乗馬や乳しぼりなど動物とふれあうこと

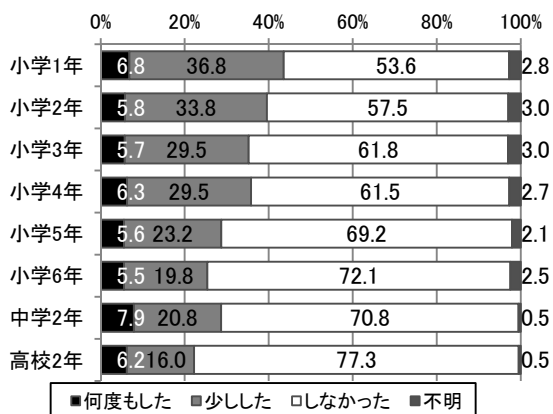
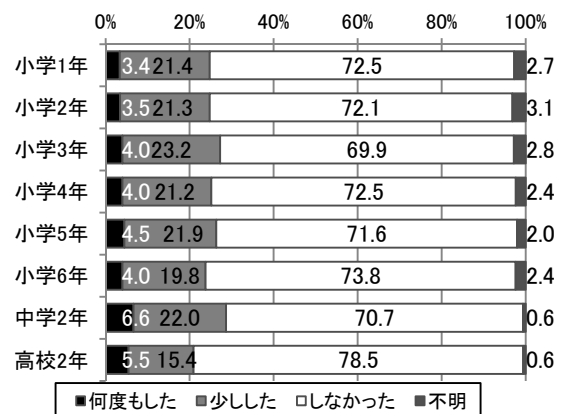
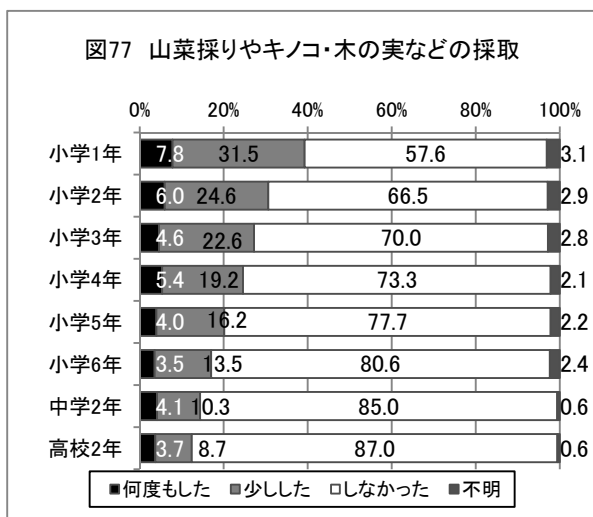


図76 植林・間伐・下草刈りなどをすること





ウ. 平成 18 年から平成 24 年の 6 年間の比較

平成 18 年から平成 24 年の 6 年間の小中学生（小 4、小 6、中 2）の学校の授業や行事以外での自然体験活動を見ると、4 月からこれまで（該当年度の 4 月から調査時期（2 月）まで）に、どれくらいしたことがありますかという問いに、「何度もした」「少しした」と答えた割合は、「スキーや雪遊びなど雪の中での活動」については、平成 18 年から平成 24 年にかけてゆるやかな増加傾向にある。また、「昆虫や水辺の生物を捕まえること」、「自然の材料を使った工作」については、平成 18 年から平成 22 年にかけて「何どもした」、「少しした」と答えた割合はゆるやかに減少しているが、平成 22 年から平成 24 年にかけては増加している項目が多い。

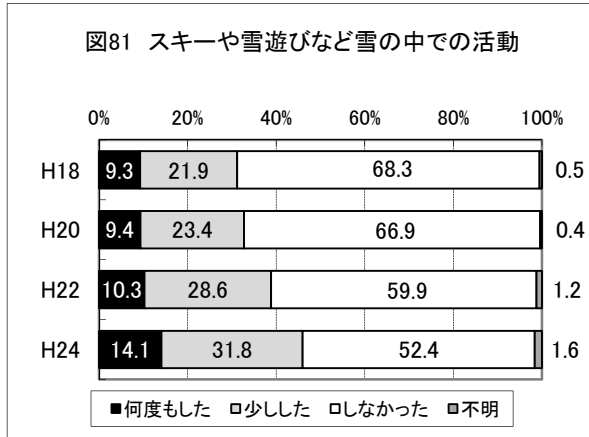
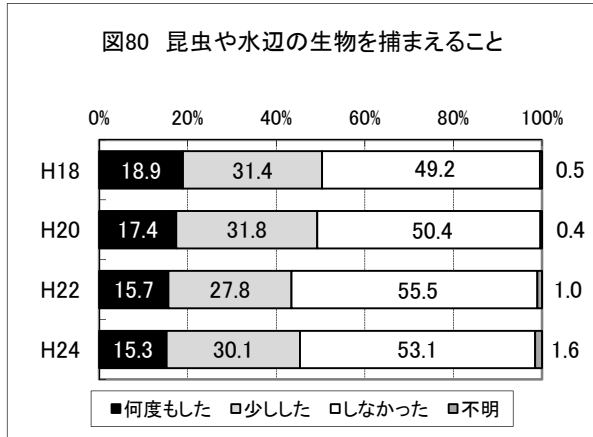
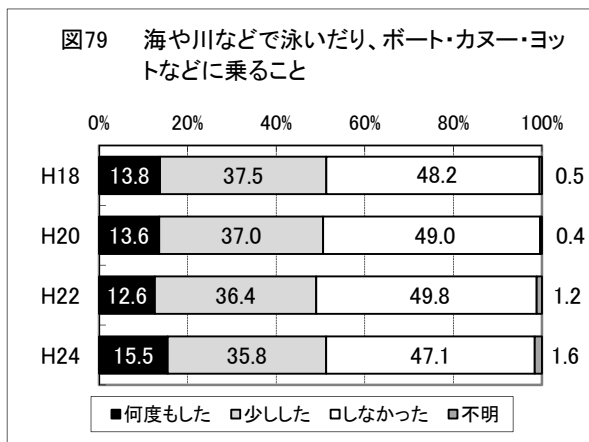
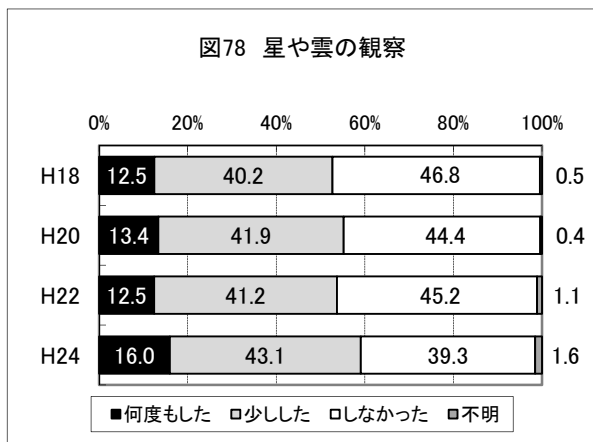


図82 魚を釣ったり貝を採ったりすること

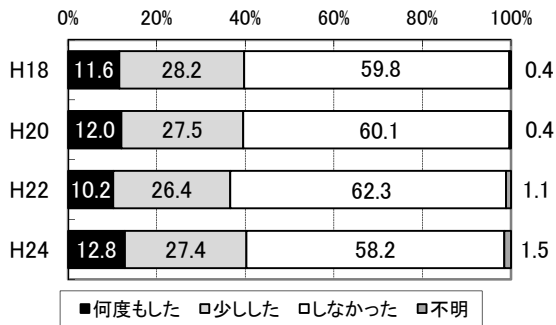


図83 自然の材料を使った工作

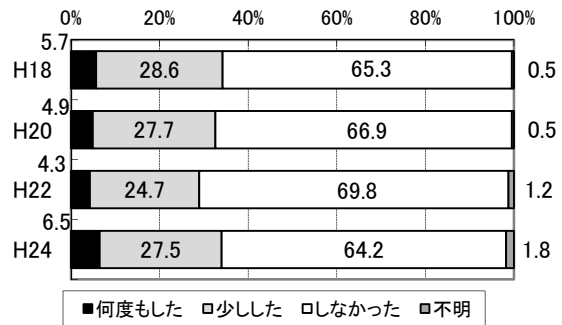


図84 米や野菜を植えたり育てたりすること

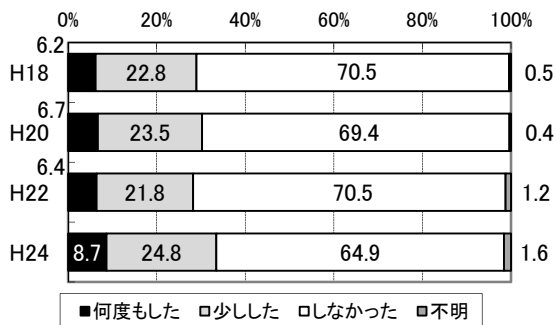


図85 野外で食事を作ったり、テントに泊ったりすること

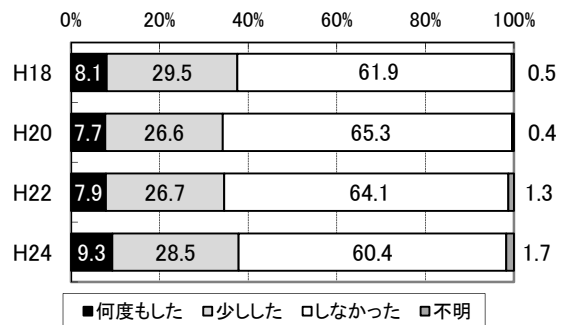


図86 山登りやハイキング、オリエンテーリングやウォークラリー

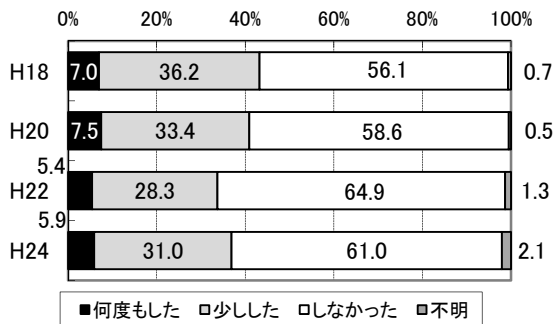


図87 植物や岩石を観察したり調べたりすること

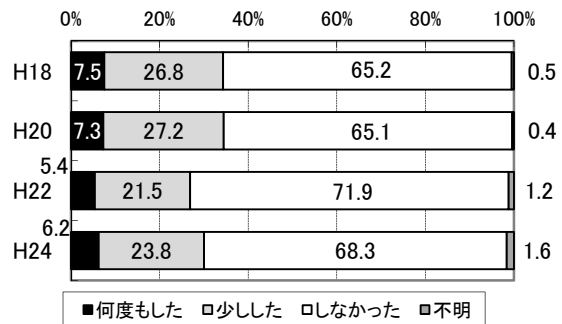


図88 乗馬や乳しぼりなど動物とふれあうこと

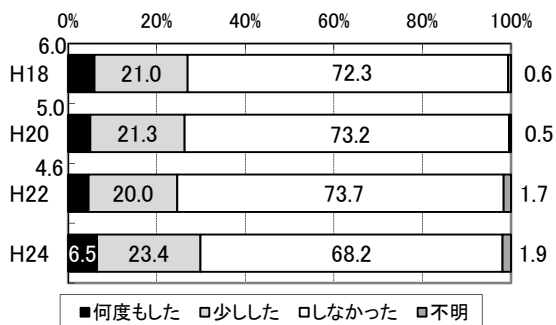


図89 植林・間伐・下草刈りなどをすること

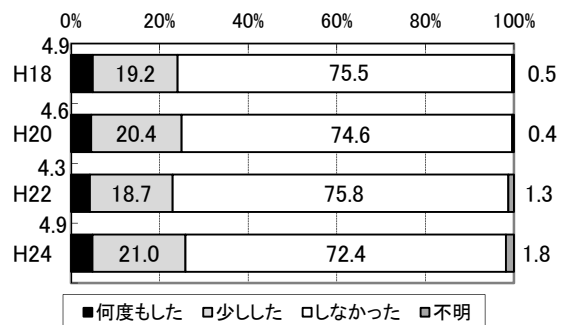


図90 山菜採りやキノコ・木の実などの採取

